

第一高等学校医学部薬学科のウサギ狩り

薬学雑誌 192 号 198 頁, 1898 (明治 31 年 2 月)
千葉縣通信欄

明治 19 年の中学校令により全国に高等中学校が 5 つ作られた。大学予科のほかに学部設置が認められており、本郷弥生町に本部があった一高は付属の医学部を千葉猪鼻台に置き、薬学科も明治 23 年併設された。

その 8 年後、立春も過ぎ良く晴れた冬の日、薬学科はこんなことをしていた。出てくる地名はいずれも今の千葉市内。それにしても提案、即決、野山を走り元気が良い。またこの記事によれば、紀元節式典は参加自由だったようだ。御真影を奉じて大変だったのは昭和に入ってからなのか。

「去る 10 日は寒余の降雪にて都鄙いずことも銀世界に化し知りぬれば、この好機を利用して兎狩りを催さんものと協議一決、翌 11 日学生の有志は先発として千葉町を去る 2 里余

東南に方れる鎌取村にと赴きぬ。その日は払暁いずれも得意の粉紫にて肩には猟銃ならずば張網の結束せるなどの品々携えられて一同は薬学部構内へと集合して 7 時というに出発したりき。

古屋織田松山の 3 教官は紀元節の拝賀を了りて直ちに式衣を解き俱々徒歩に便なる軽装に支度なし先発隊に追ひて猟場へと急行したり。やがて鎌取村に至るやはるかに喧囂駆逐の声を耳にす。余ら 3 人一茅屋について憩う間もなく先発隊の面々は二三の猟師とともに大なる一兎を得て来たるに会ふ。ここに於いて衆皆、快と呼び、再び他の猟場にと歩をとり駆逐すること以前の如し(中略)

既にして日は西山に春き暮色昏々たり。此に於て一同帰途を急ぐの途、千葉町を距る 1 里ばかりなる生実山なんと呼ぶ処にて三度猟し、ここに一兎を獲て衆の意気は愈々揚り、路を鉄道線路にとり曾我町を経て帰校したり。時に夕陽は全く没し余の帰宅するや時辰八時を報ず」

小林 力